



市立診療所・介護医療院 建設スタート

市政懇談会「あつやトーク」に市民から切実な声

7月26日から8月3日までの5日間、市政懇談会が9か所で開催され、のべ137人が参加しました。各会場で出された質問や意見と、市長からの回答の概要をお知らせします。

【リースイリソート】

● サツカーなどの大会も、宿泊施設がないので遠くから大会に参加できない。宿泊施設の確保を。

● 遠征にきている選手のためにもホテルを1か所だけでも泊まれるように要望を。

● 町内会館等協議中。

● スポーツ合宿ができるように。

● レースイリゾートの早期再開を。

● 引き続きライ社長に強く要望していく。

【雇用】

● 雇用がなければ人口は増えない。1人でも2人でも呼び込む工夫を。

● 合同企業説明会等を実施してきた。今後継続して努力したい。

【まちづくり】

● コンパクトシティ構想よりも、住民サービスを優先に。

● 道道1008号線(熊ノ沢林道)の開通を。

● 街づくりのビジョン、具体的な戦術を。

● 風致公園やキャンプ場の整備を。

● 豊かな自然を大切に生かして。

● 公園や遊具がほしい。

● 子供たちの声が聞きたい。

● 園を。りすたに公園を。

● 平和運動公園に古い坑口、滝の上公園にチャシがある。少し手を加えれば、ウオーキングコースになる。また、風致公園も竹の子シーズンにはたくさん車でにぎわっている。季節限定でもオープンを。

● 総合型スポーツクラブ「ゆるっと夕張」担当の地域おこし協力隊の任期が切れる。

● 倒壊家屋が危険な

● 後任確保を。

● 今後確認・検討する。

● 沼ノ沢地区の具体的なプランは？

● 早急に老朽化市営住宅を解体し、新住宅を建設し、PRと誘導促進を。

● 市民との協議が先で、具体的には決まっていない。居住誘導地域に指定されている。今後、どのようにしていくか具体的に検討していく。

● 倒壊家屋が危険な

● 高谷地では人口減が加速中で3〜5年ごとに集約や風呂の見直しなど事前に周知を。高齢になってからは動きにくい。

● 高齢化で、町内会、トイレ掃除、花壇整備、草刈、何とかやっつけてはいるが担い手不足。

● 町内会に代わる補完組織も考え協議していく。

【除雪】

● 高齢化でどこも大変。あと1メートル入ってほしいところもある。

● 持ち帰り検討する。

【市営住宅】

● 雨漏りの修理を。

● 今後空き地や老朽化した住宅をどうするのか。草刈りは？

市立診療所・介護医療院 —2023年 夏オープン!!—



「広報ゆうばり」より

7月30日、臨時議会で「市立診療所・介護医療院」建設工事の請負契約が議決されました。

- ・建築主体工事：約 13、8 億円
 - ・電気設備工事：約 4、6 億円
 - ・機械設備工事：約 8、5 億円
- (3工事とも大手建設会社と地元工務店との共同体での受注です)

これまでどおりの診療科目、19床の入院ベッドとともに、これまで市立診療所に併設されていた「老健」に代わり「介護医療院」19床が設置されることとなりました。

場所は旧若菜中央小学校グランド跡地、2023年夏の供用開始に向けて、いよいよ建設工事が始まります。

※介護医療院とは？(厚労省HPより)

介護医療院は、単なる療養病床等からの移行先ではなく、「住まいと生活を医療が支える新たなモデル」として創設されました。介護医療院においては、「利用者の尊厳の保持」と「自立支援」を理念に掲げ、「地域に貢献し地域に開かれた交流施設」としての役割を担うことが期待されます。

要介護高齢者の長期療養・生活施設として、介護療養病床(療養機能強化型)相当のサービス(I型)と老人保健施設相当以上のサービス(II型)の2つのサービスを提供することができ、利用者の「看取り・ターミナル」を支えることも重要な役割のひとつと想定されています。

また介護医療院は、介護老人保健施設や特別養護老人ホームと同様に地域交流を基本方針として位置づけ、今後、急速に増えていくと予測される医療ニーズのある要介護高齢者の生活を医療と介護で支える施設として地域の中で成熟が期待されています。

持ち帰り検討する。

【教育】

●地元を知るふるさと教育が大切。再編地区の方々の経験や歴史を聴く機会を。

【石炭博物館】

●「語り部制度」のよいうなシステムが必要。●スクールバスの遅延の連絡を。

●トイレが不足。24尺層の壁を外して。模擬坑の整備は？

●今後再発防止に向け連携を図っていききたい。

●今年度はどのようか計画づくりの予定。

●公設塾の新聞報道について説明を。

【JR跡地】

●レールの撤去が進めば除雪が楽になり近道も作れる。

●JRの土地は購入することは可能。今後、どう利用できるかアイデアを出していきたい。

【交通問題】

●デマンドバスで買物の際、紅葉山の農協に月1回でも行けるように改善を。

●ルールは一部だけでも、撤去せず残して。活用をしたい。

●札幌からバスで帰宅の際、バスが遅れるとデマンドバスは待っていてもらえず、タクシーもない。帰宅手段を確保してほしい。

【その他】

●コロナ禍で、面会ができない施設入所者と顔を合わせる工夫ができないか。

●リすたの壁面利用やピアノ設置、集まりやすい工夫を。

●往復のバス時刻が開きすぎ。改善を。



くずさんの夕張歴史散歩(162)

石炭博物館模擬坑の火災 ③

模擬坑の始め

模擬坑の発端は、ある少女の好奇心からです。1939年(昭和14) *1の秋、皇族の照宮*2が(当時14~15歳)北海道旅行し炭鉱を見た

いとしたことがきっかけです。連絡を受けて北炭は急遽、大露頭に隣接する天竜坑からの坑道の一部開削して、実際の炭鉱の模様を再現します。これが事の始まりでした。

しかし現在見るような規模ではなく、ごく簡単なものでしたが、昭和天皇や当時の皇太子(現上皇)が相次ぎ見学、そのたびに整備がすすみます。

同時に、模擬坑とは言え採炭・運搬・保安の施設をもっているのです。炭鉱救護隊(災害時に危険な現場で救命にあたる)の訓練施設としても活用され、後に石炭博物館の一環として公開されたのです。

夕張の象徴であり世界に類を見ない歴史的産業遺産

石炭産業の全面撤退以来久しく、夕張でも1990年に大夕張閉山を最後に石炭は一かからも産出されていません。当然、石炭そのものを知らない世代が多くなってきました。

事のきっかけはともかく、この模擬坑は、直に石炭そのものに触れることが出来て、作業方法や作業工程の歴史的な変遷、そこでの労働者の姿や災害にあった現場を実際にみられる、特別な歴史的産業遺産です。

また、国の「登録有形文化財」に指定されていて、「炭鉄港」の日本遺産認定の中心として大切な財産なので

*1 夕張市史には、昭和14年来道の折に見学と、昭和16年に炭鉱

見学と、両方記述されている。

*2 昭和天皇の長女、いまの天皇の伯母にあたる。



岩渕 友「国会かけある記」参議院議員

岩渕 友

#今からでも五輪中止の決断を、コロナ対策に全力を

総選挙勝利にむけて、紙智子参院議員と北海道入り。畠山和也前衆院議員を先頭に、それぞれ地域のみなさんと活動しました。私は、札幌市東区、小選挙区3区で伊藤りち子(比例重複)予定候補、9区で松橋ちはる予定候補と活動しました。新型コロナウィルスの新規感染者が東京で4000人、全国でも1万人を超え、北海道にもまん防が適用されることになりました。

さらに道内で記録的な暑さが続くなか、「こんな暑いのに本当にマラソンや競歩をやるの?」しかも、感染が広がるのではないか心配」という訴えや、ワクチンのこと、くらしの問題などが怒りとともに寄せられました。

札幌市白石区では伊藤りち子さんと、新しくできた「居酒屋の灯を消すな」というポスターを持って居酒屋を訪問。消費税増税などで大変だったところに、長引くコロナ禍で、閉店している店もあります。苦境のなかで事業を続けてきたお店も、「1日3人くらいしかお客さんが来ない」「カラオケ好きのお客さんも来なくなった」「売上が落ちた」など切実な実態が寄せられました。今からでもオリンピックは中止して、コロナ対策に全力を尽くすことは待ったなしです。

室蘭での若者とのつどいで、どんな社会にしたいか、みんなで画用紙に書いて発表しました。一人ひとりの命が大切にされる社会にしたい。命を大切にできない菅自公政権を終わらせて政権交代を実現する総選挙に。日本共産党を大きくするときたと改めて決意しています。